

第4次湖南省子ども読書活動推進計画（案）のパブリックコメントの結果について

意見の募集期間：令和7年（2025年）12月24日から令和8年（2026年）1月23日

意見の件数：3件（1名）

【内訳】

- (1) 原案を修正するもの・・・0件
- (2) 原案には反映できないもの・・・1件
- (3) 既に原案に記載済みのもの・・・0件
- (4) その他・・・2件

※記載されている意見をそのまま転記しています。

NO	ご意見	回答
1	<p>★湖南省「読書の魅力」種まきプラン案（第4次湖南省子ども読書活動推進計画案）全体に関わって</p> <p>今回パブリックコメントを行っておられますが、先ず以て これまでの湖南省「読書の魅力」種まきプラン（第3次湖南省子ども読書活動推進計画）の存在自体 さらには内容までを 市民のどれくらい知っているのかが重要で それをお示しいただきたい。私の周囲は全員 存在すら知りませんでした。私も 湖南省の学校現場に長く勤務し 子どもたちの読書活動の推進に関わってきましたが 市にこのような推進計画があり それに基づいて進められているとは全く知りませんでした。市民の多くが存在自体や名称も知らないという実態があれば その中で意見募集・パブリックコメントやタウンミーティングなどを行って、「こんな意見が出た、こんな声があった。このように 市民の意見を聴いて行政を行っている。」と 広報されても それは全くの行政サイドの 事業をうまく進めるための言い分けづくりだと思います。行政は、推進計画を ちゃんと公開している しっかり知らせている とのことでしょうか、直接推進に関わる者はもちろんのこと 最も大切なのは 市民の多くが 湖南省「読書の魅力」種まきプラン（第3次湖南省子ども読書活動推進計画）を知っている 認識しているという市民サイドの視点です。市民に広く知られているということで 今回もこのパブリックコメントを実施されたはずなので 市民の認知の程度を 必ず示して教えてください。</p> <p>「第三次湖南省総合計画（案）」についても 意見募集が行われましたが、同様です。意見募集やパブリックコメント、タウンミーティング、アンケートを 「市民の意見を聴いていろいろな計画や事業をすすめているんだ」という行政にとって都合よく進めていくための材料づくりに使わないでください。</p>	<p>(4) その他</p> <p>市政情報・計画等については、市民に適切に情報を伝えていくことが重要であり、多様な情報媒体や手法を用いて広報に努めているところです。市民への認知度等について調査は実施してはおりませんが、ご意見いただきましたとおり、市民に認識されていることは重要だと考えています。今後も適切に情報を発信しつつ、市民の認識がより広がるように取組を実施してまいります。</p> <p>なお、第3次計画までは生涯学習課が事務局を担っており、市ホームページに掲載するほか、市内小中学校や図書館を含む関係課に配布するなどして周知に努めていたところです。</p>
2	<p>★推進計画の内容に関わって</p> <p>第3次湖南省子ども読書活動推進計画の中の第3章子どもの読書活動推進のための方策では、先ず推進する機関の「役割」明確にされ、次に「現状と課題」が示され、だからこのように取り組んでいくんだという「施策の方向」が 文章で詳しく書かれており、なるほど、だから この機関でこのような取り組みが具体的に行われているのかが とても理解しやすかったです。ところが 第4次の案では、表形式で項目で書かれており文字を追うのは楽ですが推進の理由や内容がとてもわかりにくくなっています。第5次湖南省行政改革大綱（案）のように概要版をつくるなら、そのように表形式・項目で表せばいいですが、向かうべき方向をしっかりと共有して 心を合わせて推進していくためには 第3次のように文章でしっかりと詳しく書くべきです。推進する意義や行われている取り組みの意義が わかりにくくなるので 必ず改めてください。</p> <p>その中で 特に 大変 心にひっかかったのが 2地域における推進・(1) 図書館における推進 です。第3次の推進計画の「現状と課題」に表記されていた次の文章が 全く削除されていることです。</p>	<p>(2) 原案には反映できないもの</p> <p>第3次計画について評価いただき、また、図書館の重要性についてご指摘いただき、ありがとうございます。</p> <p>本計画は、子ども読書活動を推進するにあたり、子どもの読書活動の実態から現計画期間中の成果と課題を明らかにし、次期計画としての方策をまとめたものとなります。</p> <p>第4次計画を策定するにあたり、計画の構成の見直しを行い、それぞれの推進主体の「現状と課題」に替えて、第2章「第3次計画中の成果と課題」で全体として分析を行い、第3章「計画の基本目標と基本方針」に沿って、第4章「子どもの読書活動推進のための方策」として、それぞれの役割と、その役割が果たせるよう計画第4次期間中の具体的な取組を記載することとしました。</p>

	<p>「◆湖南省の図書館は、石部・甲西の2図書館と移動図書館1台で運営し、平成30年3月末現在約36万冊（うち児童書約10万冊）の図書資料を所蔵して市民に貸し出しを行っています。近くにあればよく利用されますが、遠くなるにしたがって、利用率が減っていく傾向にあります。図書館が遠くにある場合、子どもたちが一人では通うのが困難なため、より利用されやすい環境づくりが求められています」</p> <p>これは、5年たっても全く現状・課題ともかわっていないはずで、図書館の存在は以前からもこの4次計画でもみやくみやくと流れているとおり、ただ本があって貸し出しが行われるという場ではありません。本や読書などを通して人を育て人と人をつなげるなどまちづくりにとって大変重要な場所です。したがって「図書館が遠くにある場合、子どもたちが一人では通うのが困難」だけでなく「障がいのある方 免許を返納された高齢者などの利用の困難さも含めて その利用の活性化はまちづくりにとって 現在も今後においても 大変重要な課題であるはずで、</p> <p>本来は 市の図書館として 石部図書館も甲西図書館も 同時にそのあり方を考えていくべきなのに、現在 行政は、甲西図書館だけのリニューアル計画をどんどん進め、石部図書館については 今後考えていくという言葉で ほったらかしにし、図書館としての存在をなくそうとしています。そして、今回は、第4次湖南省子ども読書活動推進計画から、先の文章の削除です。石部図書館をなくすのに 誠に不都合だと 書き方を変えることを理由に 削除したとしか思えません。</p> <p>現在 石部図書館をなくすという行政に対して 反対の声があがっています。「図書館が遠くなる」ということだけでなく 「石部図書館は まちづくりにとって大変大切だ」という図書館の意義・役割などについての声をあげておられるのにもかわらず、その声に耳を傾けず、「新しくつくる公共施設に本を置きます」「移動図書館車が各学区などを回って貸し出しも行う」などという反対する市民の声を無視した、また、推進計画自体からもかけ離れた行政側の返答を何回も耳にしてきました。しっかりと 反対する市民の声に向き合ってください。先の 削除した文章を 必ず明記してください。</p>	<p>表形式での記述は、計画に基づき取組を着実に進めることができるように取り入れたものです。</p> <p>また、本計画は「子ども読書活動推進」のための計画であり、そのなかで図書館の果たすべき役割についても記述をしておりますが、「甲西図書館」「石部図書館」の今後の方向性について言及するものではありません。ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。</p>
3	<p>このようなことから 湖南省「読書の魅力」種まきプラン（第4次湖南省子ども読書活動推進計画）を 行政が 自分たちの都合良く事業を進めるための一つの材料（理由付け）にしないでください。推進計画だけでなく甲西図書館のリニューアルや東庁舎の交流広場などについての アンケートや意見募集、タウンミーティングを開催についても 同様です。市民に もう決定したかのように思わせ、うまく進めるための理由付けに使わないでください。</p> <p>今日も（1月21日）スマホに「松浦市長が参加して 市民と一っしょに語り合うワークショップを開催します。東庁舎を通じて湖南省の未来を考える そんなワクワクする・・・」こんなメールが届きました。</p> <p>西庁舎もあるのですが、同様に開催されるはずですよ 松浦市長。まさか 西庁舎の存在やリニューアルを 市民の意識から消し去ろうと・・・</p> <p>アンケートや意見募集、タウンミーティング、ワークショップをどんどん開催し、それを 市の広報誌などで 大々的に広報することによって行政の案を既成事実化し 行政の思惑の方向へ市民の意識を誘導する・・・これが松浦市長のやり方なんでしょうか。</p> <p>失礼な言い方ですが、このような ずる賢いやり方で行政全般を進める松浦市政は 信用できないと思います。</p>	<p>(4) その他</p> <p>本計画は、本市の全ての子どもたちが本と幸せな出会いをし未来を拓く力をつけるために、関係者が連携しながら子どもの読書活動を推進していくために策定するものです。趣旨をご理解いただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>また、市では市民の皆様のご意見をお聞きし、ともに市政を進めていくために、アンケートや意見募集、タウンミーティング、ワークショップ、パブリックコメントなどを通じて多様な声を政策に反映することを基本方針としています。またその際には声を上げにくい方々の意見も吸い上げ、複数の場で検討を重ねることで実現可能性や影響を慎重に検証し、代替案や反対意見も公平に紹介しながら丁寧な対話に努めています。西庁舎周辺整備につきましても、地域の皆様、市民の皆様のご意見をお聞きする機会を設けてまいります。ご理解いただきますよう併せてお願いいたします。</p>